

Source of Information: Asia Plus Information Agency

Date of Publication: August 7, 2019

Link to the page: <https://asiaplustj.info/en/news/tajikistan/society/20190807/jica-and-football-federation-of-tajikistan-organized-master-class-for-young-tajik-players>

\*\*\*\*\*日本語仮訳\*\*\*\*\*

## タジキスタン・サッカー連盟と JICA タジキスタン事務所が少年サッカー教室開催を支援

2019年8月7日: Asia-Plus



集合写真(後列左から5番目が柴村コーチ兼選手)

2019年8月5日、ドゥシャンベ市にて、タジキスタン・サッカー連盟と JICA タジキスタン事務所との協働により、タジキスタンにおけるサッカーの更なる発展を目指して、少年サッカー選手向けのサッカー教室が開催された。

同教室では、日本のサッカーチーム「南葛 SC」の現役の選手で、かつヘッドコーチを務める柴村直弥氏が、タジキスタンの U-15 及び U-18 の選手らを対象に指導をした。

柴村コーチ兼選手は、元 J リーガーとして日本国内でプレーしたばかりでなく、ラトヴィア (Ventpils)、ポーランド (Stomi Olsztun)、ウズベキスタン (Pakhtakor-Tashkent) といった国外のチームでも活躍した経歴を持つ。



同サッカー教室での様子

サッカー教室は基礎練習とプレー技術練習で構成され、教室終了後に柴村氏は若いタジク人サッカー選手について「才能があり、一生懸命に練習するなど、潜在能力が高い」と評した。柴村氏は、若いサッカー選手らに対し「真のプロフェッショナルなサッカー選手になるためには、技術を向上させる努力を怠らず練習を継続しなくてはならない」と語り、熱心に指導した。

タジキスタン・サッカー協会の他のイベントと同様に、今回の少年向けサッカー教室がタジキスタンの未来のサッカー選手の発展とスポーツを若者の間に普及させることにつながっていくことが期待されている。





タジキスタン・サッカー連盟副会長のディルショッド・ジュライエフ氏とのツーショット(右側が柴村氏)

～JICA(国際協力機構)とタジキスタンとの関係～

JICA は 1993 年にガバナンスとマクロ経済に関する研修事業にタジク政府関係者を招くことにより、タジキスタンへの技術協力支援を始めました。2019 年 1 月現在、これまで研修プログラムと知られていた「知見の共創プログラム (Knowledge Co-Creation Programs; 略称「KCCP」)」への参加人数は 2200 人を超えています。

2006 年に JICA タジキスタン・フィールドオフィスが設置されて以来、タジキスタンの人々の生活水準向上支援を目指して、農業、村落開発、飲料水給水、保健医療、運輸、エネルギー、人材育成及び中小企業振興などの分野において、JICA は様々な無償資金協力案件や技術協力案件を実施しています。

これまでに JICA による対タジキスタン向けの支援は、実施中の 11 案を含む累計 35 案件に上ります。その支援総額はおよそ 420 億円に達し、その内、技術支援協力が約 75 億円、約 345 億円が無償資金協力という構成になっています。

\*\*\*\*\*

もっとタジキスタンについて知りたい人はこちら。

(日本語ページ) <https://www.jica.go.jp/tajikistan/index.html>

(英語ページ) <https://www.jica.go.jp/tajikistan/english/office/topics/index.html>